# 活動報告書 2020

かんがえる、こうどうする、たのしむ
認定NPO法人
Kacotam

- カコタムってどんなトコ？？
- 2020年の活動を振り返って/2020年の各活動紹介
- 【特集】新型コロナウイルス感染症の影響とその対応
- Kacotamの裏側
- 支援の輪
- 2021年にむけて

# カコタムってどんなトコ？？

## 利用しているご家庭と子どもに聞きました

### ご家庭から寄せられた声

「子育てや学習の相談をできる存在」
「私一人では勉強は見切れないので、勉強のことはカコタムで聞いてもらうようにしています」
「自分が教えていたらテストの成績とかも気になってピリピリしてしまうと思いますが、それがなく勉強に関しては本人たちのペースで見守れるので、私の気持ち的にも助かっています」

Kacotamを利用するようになっての子どもの変化として、「宿題を終えられるようになった」「勉強が出来ないわけではなかったけれど、楽しく勉強を続けられている」「問題が解けることや理解できることを楽しく感じているよう」と、学習に前向きに取り組める状況になったという声が寄せられました。また「以前より自分の意見を伝えられるようになった」等、毎回変わる担当メンバーとの一対一での関わりを通して、自分の意見を伝えるという経験値が増えていった様子を伝えていただきました。

Kacotamの学習支援は普段の五教科を中心とした学習の他に、自然体験学習や企業等との連携企画などを広い意味での学びの場として提供しています。小学生の姉妹で利用されているご家庭では、「このイベントに行ってみる?」という保護者の問いかけに、姉妹は「行ってみたい!」と答え、実際に参加してみると「楽しかった!」と帰ってきたそうです。学習に限らず「色々な体験ができていい」というのもKacotamの魅力の一つとなっているようです。

## Kacotamを利用する目的は？

自宅学習がすごい苦手だったので、勉強する習慣をつけようかな、と思った。
勉強が1番の目的だったけど、色んな人たちと接することができるし、他校の子たちとも絡めるから、それも楽しみになっていった。話してみたい子たちがいたから。ちょっとモチベーションにつながって、その感覚が新鮮だった。

（高3・男・利用年数1年半）

## Kacotamの魅力はどんなところ？

塾と比べてゆるい雰囲気なので、「勉強するために行かなきゃ」と切羽詰まった感情で通うことがない。勉強をするだけでなく相談相手を見つけることもできるなど、自分で選択ができるっていうのが良い。第三の家みたいな感じ。

（中3・女・利用年数2年5か月）

## メンバーはどんな存在？

友達と先生の中間。友達っていう感じでもないけど、先生みたいに遠い存在でもないなって。親戚のお兄さんお姉さん的な感じ。ちゃんと一線は引いてるけど、踏み込めるところまで踏み込んでくれる感じ。

## 「ゆるきち」はどんなところ？

最初は英検の勉強で来たので完全に勉強目的だったけど、ゆるきちに来て誰かと関わり始めてから、遊びに来るような感覚になってきた。みんなが話しかけてきてくれて、みんなと遊んでるのが楽しいみたいな感じで最近は使っている。逆に英検の勉強の時は、休む暇もなくガチガチにやってくれたことでめっちゃ満足だった。

（高3・女・利用年数4年）

# 2020年の活動を振り返って

施設内居場所カフェ
## からんこえの活動開始

6月から児童養護施設興正学園、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会（以下SYAA）と連携し、からんこえを開始しました。からんこえは、児童養護施設退所後に相談先の1つとしてKacotamやSYAAを選択できるような関係性を構築するために、施設に入所している子どもとボードゲームやカードゲームなどを通して関わる活動です。関わるなかで得た情報をもとに、子どもと様々な学びの機会をつないでいきます。

琴似会館・あすかの森
## 協力団体との連携による参加者急増

琴似会館拠点、あすかの森拠点を利用する子どもが6月から7月にかけて急増しました。協力団体のしんぐるまざあずふぉーらむ北海道やあすかの森認定こども園、生活保護のケースワーカーなどからの紹介により、琴似会館拠点では6名、あすかの森拠点では4名増えました。

CafeBlue･GELATO&BAKE WHITEとのコラボメニュー
## 子どもと寄付つきメニューを開発

学習支援や居場所を必要とする子どもに必要な情報が届くようにするために、CafeBlue･GELATO&BAKE WHITEとKacotamが協働で、期間限定寄付付きメニューの開発･販売を行いました。スタサポで関わる子どもからメニュー案を出してもらい、それをもとにパティシエが新商品を開発し、「食べクリソーダ」「ジェラートサンド」「和のパンケーキサンド」の三つが期間限定で販売されました。コラボメニュー販売期間中には店頭に募金箱も設置されました。

子どもの抱える課題解決を団体としてサポートする体制
## ソーシャルワークチーム始動

活動で関わる子どもや相談フォームから連絡のあった家庭の抱える課題を様々な視点で解決するためのサポート体制として、ソーシャルワークチームを立ち上げました。社会福祉士や精神保健福祉士、看護師などの専門職や福祉を学ぶ学生、それ以外の様々な分野のメンバー 9名が参画しました。活動メンバーからの情報収集フローやケース管理などの検討、システム構築を進めました。

## 数字で見る2020年の活動

### 利用者データ

拠点型学習支援 スタサポ　延べ 1,659名 が利用しました。

訪問型学習支援 学ボラ　43名　13施設 が利用しました。

居場所づくり ゆるきち　延べ 546名 が利用しました。

学び直し支援 リラーニング　2名 が利用しました。

### 学習環境データ

拠点型学習支援 スタサポ　延べ 1,683名 が子どもと関わりました。

訪問型学習支援 学ボラ　50名 が子どもと関わりました。

居場所づくり ゆるきち　延べ 419名 が子どもと関わりました。

学び直し支援 リラーニング　2名 が子どもと関わりました。

イベント　21企画 を実施しました。

### コンサルティング事業

1団体 の学習支援活動をサポートしました。

延べ 77名 が利用しました。

延べ 73名 が子どもと関わりました。

# 2020年の各活動紹介

## 学び支援事業

### 学習に取り組める環境づくり

#### スタサポ（拠点型学習支援）

3~5月は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、ほとんどの拠点で活動を休止せざるを得ない状況でしたが、オンライン会議サービス等を活用したオンライン上での代替措置を実施しました（詳しくは、「特集新型コロナウイルス感染症の影響とその対応」をご覧下さい）。6月以降は、感染拡大状況を注視しながら、必要な感染拡大防止策（消毒清掃、換気、定員制限等）を行いつつ、対面での活動が継続できるように進めました。

2019年6月から開設している江別市の拠点は、当年3月より協働先があすかの森認定こども園に変わりました。また、体制作りを進め、開催頻度を月1回から月2回へと増やすことができまた。

| 拠点 | 開催日時 | 利用者数 2020年1月～12月に1度以上参加した子どもの人数 | |
|---|---|---|---|
| エルプラザ（札幌市北区） | 土曜日　18時30分～ | 39名 | 小学生：10名<br>中学生：10名<br>高校生：18名<br>過年度：1名 |
| へるすたでぃ（札幌市北区） | 水曜日　18時30分～<br>土曜日　10時～<br>土曜日　13時～ | 27名 | 小学生：7名<br>中学生：13名<br>高校生：7名<br>過年度：0名 |
| 琴似会館（札幌市西区） | 月曜日　19時15分～<br>第二･四 火曜日　19時15分～ | 33名 | 小学生：16名<br>中学生：13名<br>高校生：4名<br>過年度：0名 |
| ねっこぼっこのいえ（札幌市豊平区） | 第三 土曜日　15時30分～ | 14名 | 小学生：7名<br>中学生：5名<br>高校生：2名<br>過年度：0名 |
| ゆるきち（札幌市東区） | 金曜日　18時30分～ | 7名 | 小学生：1名<br>中学生：4名<br>高校生：2名<br>過年度：0名 |
| うぉーく（札幌市北区） | 第二･四 水曜日　18時30分～ | 6名 | 小学生：2名<br>中学生：3名<br>高校生：1名<br>過年度：0名 |
| L-Base（苫小牧市） | 不定期（月2回程度） | 9名 | 小学生：4名<br>中学生：2名<br>高校生：3名<br>過年度：0名 |
| あすかの森（江別市） | 第一･三 火曜日　18時30分～ | 8名 | 小学生：7名<br>中学生：0名<br>高校生：1名<br>過年度：0名 |

## 学ボラ（訪問型学習支援）

当年は、児童養護施設南藻園から小学生5名の依頼があり、1年ぶりに訪問しました。また、からんこえの活動から学ボラにつながったケースや、学ボラから大学カコタムにつながったケースなど、事業を超えて学びがつながることが多くありました。新型コロナウィルス感染症の感染拡大の影響により、4月下旬から5月中旬、11月下旬から12月上旬と訪問が難しい時期がありましたが、施設に機器を貸し出し、オンラインでの学習支援を実施して、関わりを継続できるように努めました。

●学ボラ実施施設

| 種別 | 名称 |
|---|---|
| 児童養護施設 | 興正学園 |
| | 柏葉荘 |
| | 南藻園 |
| 地域小規模児童養護施設 | 興正チャイルドホーム中の島 |
| | 興正チャイルドホーム平岸 |
| | すずらん（柏葉荘） |
| ファミリーホーム | 望みの家 |
| 母子生活支援施設 | すずらん |
| | あいりん荘 |
| | もいわ荘 |
| 児童心理治療施設 | ここらぽ |
| 自立援助ホーム | シーズ南平岸 |

## リラーニング（学び直し支援）

リラーニングは、一人の若者に固定の担当のメンバーが1名つく形態（個別担当制）で実施し、利用する若者それぞれの学習特性や生活リズムに合わせて学習を進めています。当年は2名の若者と関わり、それぞれ、中高生のオープンスペースゆるきち、フリースペース漂着教室（運営：NPO法人訪問と居場所漂流教室）を主な会場としました。フリースペースを会場として利用したことで、担当メンバーとの関わりだけではなく、会場として利用したフリースペースに居る他の人との関わりも生まれていました。

## 受験カコタム（受験対策学習会）

1~3月は2020年4月入学生向け、5~12月は2021年4月入学生向けの受験対策学習会を毎週日曜日の午前中に、メンバーと子どもが一対一の形態で行いました。例年の利用している札幌エルプラザ（札幌市北区）に加え、中高生のオープンスペースゆるきち（札幌市東区）を新たな会場とし利用し、子どもが参加しやすい環境を目指しました。

年に数回実施している受験対策についてのミーティングでは、新たに導入される共通テストに対応するための話し合いが話題の中心となりました。

# 視野が広がる環境づくり

## 大学カコタム

### 心理学分野編

高校生のA君と、将来の職業としてどのような道があるのか、大学でどのようなことを学ぶのが良いのかなどの疑問を解消するために、北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科の先生（2名）、学生（1名）にお話を伺いに行きました。

心理学の全体像、カウンセラーとソーシャルワーカーの違い、高校までの勉強と大学での学びの違い、卒業研究で取り組んでいることなどについて教えていただきました。帰り道、「今までは心理士！と思っていたけど、精神保健福祉士やソーシャルワーカーという立場がもしかしたら自分のやりたいことに近いのかもしれない。大変そうだけど、心理士も精神保健福祉士も両方とも目指したいかな」と話していました。

## お仕事カコタム

子どもが将来就きたい職業や興味のある職業で実際に働いている人を訪問する活動です。これまで、薬剤師、保育士、管理栄養士などの職業について話を聞きました。実際に働いている人から話を聞くことで、その職業の知らなかった一面を知ることができる機会となっています。

### イラストレーター編

小学生のAさんからの「イラストレーターの人に仕事について話を聞いてみたい」という声を受けて、デザイン事務所カギカッコのイラストレーターやまださんにお話を伺いました。ご自身の仕事内容や流れ、周りにいる職種について、イラスト付きの資料で分かりやすく説明していただきました。またイラストを描くときに使用しているアプリで、実際に絵を描く体験をし、ペンで紙に描くものとは違った感触にワクワクした様子で絵を描いていました。

### カフェオーナー編

高校生のAさんからの「将来、カフェを開きたい。どれくらいの資金が必要で、どのような課題があるのか聞きたい」という声を受けて、Cafe Tocoche様に協力いただき、訪問してきました。立ち上げの経緯から、カフェの経営に関わる質問に丁寧に答えていただきました。仕入れ先の決定や立ち上げ前のInstagramによる周知についてなどの質問をして、今までふわふわしていたものが少しずつ明確になり、ワクワクしている様子でした。

## 子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクト
## カタチ化プロジェクト

子どものやりたいことや興味の持ったことを、どうすればできるかを一緒に考えて、実現をしていくプロジェクトです。

### 日本刀を工作したい

小学生のA君から、「日本刀を工作したい」という声が上がり、材料となる段ボールや、制作に必要なボンド、着色スプレーなどの買い出しから工作まで行いました。A君が思い描く日本刀をメンバーとともに試行錯誤しながら制作し、完成した時には、「これが欲しかった！夢が叶って嬉しい！！」と自分の制作した日本刀を振りながら、嬉しそうにしてました。

### スポーツ大会をやりたい

スポーツの日の7月24日に合わせて「スポーツ大会をしたい！」との声があり、やりたいと言った子を中心に運営チームを作り、種目とルール決めを行いました。事前準備で中高生のオープンスペースゆるきちを利用している子どもに協力してもらい、当日の種目をルールとともに確認しました。当日は各拠点に参加している子どもやメンバー計22人の参加があり、ケイドロやドッジボール、借り人競争、玉入れをして楽しみました。他拠点の子ども同士の交流があり、とてもみんな楽しんでました。

ほかに「やりたい」をカタチにした企画

スマブラ大会をしたい In すずらん / パフェとクレープを作りたい / 冬のカコタム大運動会！ / 24通りの親子丼を作ってみたい！ / TRPGがやりたい！ / ガチこぎで自転車旅したい！ / スマブラ大会をしたい

## 体験カコタム

様々な連携団体や企業、ボランティアメンバーの特性を活かしながら、学習のねらいをもって企画・実施する活動型学習です。毎年、全拠点で関わる子どもを対象に、自然体験学習や料理教室などを行っています。

### お菓子づくりに挑戦しよう

５名の小学生と藤女子大学の学生メンバーでカップケーキやプリン、スィートポテトを作りました。「一つはママのために持って帰る」と、母親のために作っている子がいたり、慣れた手つきで率先してお菓子作りを進めている子がいたりしました。集中してお菓子作りに取り組み、特にカップケーキのデコレーションに、力を入れていました。

ほかに実施した企画

自転車ではまなすの丘公園へ行こう / リアル謎解きゲーム「ゆるきちからの脱出」/ 自然体験学習 / 好き！発見ワークショップ

## カコタイム

当年は2回実施し、その後オンラインで動画配信というかたちに変えて実施しました。（詳しくは、「特集新型コロナウイルス感染症の影響とその対応」をご覧下さい）

| | |
|---|---|
| 1月 | 「同性婚について」 |
| 2月 | 「まんがの楽しみ方」 |

# つながりができる環境づくり

## ゆるきち

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、4月下旬には2週間ほどの臨時休館期間がありましたが、感染拡大防止策（事前利用予約制、利用定員を通常の50%程度に制限、ボランティアメンバーのビデオ通話による参加、換気の徹底、消毒清掃等）を実施して定期開館を再開しました。

当年は、年間を平均して1日あたり4.8名（2019年は3.8名）の利用がありました。前年と比べて利用者数の平均人数が増えているのは、平日も定期的に利用する中高生が増えたことが一因となっています。

## からんこえ

6月中旬より開始しました。児童養護施設内でボードゲームやカードゲーム等を入所児童らと行いながら、施設退所後に頼れる相談先の一つとして選択できる関係づくりをねらった活動です。子どもの好き・興味に基づき、お仕事カコタムや子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクトを実施したり、五教科の学習ニーズが出てきた子どもに対して、学ボラ（一対一で学習のサポート）をしたりします。

当年は、児童養護施設1施設、地域小規模児童養護施設4施設、自立援助ホーム1施設から、30名の子どもが参加し、学ボラやお仕事カコタムにつなげることができました。

## コンサルティング事業

これまで活動してきたなかで得たノウハウを生かし、子どもの学びの場をつくりたい団体をサポートします。当団体が直接拠点をつくるスタサポに加えて、他団体がつくる学びの場の運営をサポートすることで、様々な地域に子どもの学びの場をつくっていきます。

### 陽だまり塾

恵庭市にあるNPO法人陽だまりの家が主催する「陽だまり塾」をサポートしています。陽だまり塾は中高生を対象にした学習支援と食事提供を行う取り組みで、2017年5月頃からサポートを開始しました。当年は新たに中学生1名が参加し、総勢10名（中学生：4名、高校生：6名）と関わり、そのうち受験生3名が志望校に合格しました。

陽だまりの家の方針に基づき、受験や就職を意識した学習サポートとなりました。就職予定の高校生のAさんには、就職先決定後、WordやExcelなどの基本的な操作を学ぶサポートをしました。また、4月から高校生になり、学習に対して受け身だった子が、自分から事前に学習内容を明確にするようになったり、「もうすることがないので動画見ます」と言っていた子が、「数学を勉強します」と言うようになったりと、新しい環境になったことで、それぞれの学習に対する意識に変化がみられました。

また、今まで自分の方法で勉強をしたり、自分の解答を見せようとしていなかった子が、「ここはこう解くんですか？」と自分から質問をする姿もみられました。

## アドボカシー事業

学び支援事業で関わる子どもの現状を、講演会や学習会等を通して社会へ発信し、子どもの学びの機会格差問題に対する課題意識の醸成を図る活動です。

公開講演（主催：Kacotam）

### 「児童養護施設で暮らす子どもたち」

1月13日、Kacotam主催の公開講演「児童養護施設で暮らす子どもたち」を開催し、100名近くの参加がありました。代表高橋のほか、児童養護施設興正学園施設長の秦さん、北海道医療大学臨床福祉学科助教の片山さんが登壇しました。地域の中で家庭的な養育をすることの大切さや、施設退所後の子どもが「頼る人がいない」ことによって生じる困難、何かあったときに相談できる身近な存在の必要性などが話されました。

上田地域・長野地域合同研修会（主催：信州こどもカフェ推進プラットフォーム）

### 「子どものやりたいを カタチにする学びの場づくり」

10月21日、信州こどもカフェ推進プラットフォーム上田地域・長野地域合同研修会にて、代表高橋が「子どものやりたいをカタチにする学びの場づくり」というテーマで、オンライン上でお話をしました。約20名の参加があり、当団体のこれまでの取り組みやコロナ禍における子どもの現状、オンラインの取り組みなどを紹介しました。

北海道高等学校教育相談研究会 第48回研究大会（主催：同会）

### 「子どもが抱える困難・ニーズと 地域資源をつなぐ」

1月10日、北海道高等学校教育相談研究会の研修にて、代表高橋が「子どもが抱える困難・ニーズと地域資源をつなぐ」というテーマで、分科会の講師を担当しました。約60名の教員の参加があり、当団体の活動や子どもの現状をお話したり、具体的な事例を扱ったソーシャルワークに関するグループワークを実施したりしました。

特集

新型コロナウイルス感染症の影響とその対応

# コロナ禍での困り感

## 緊急保護者アンケートからみえたこと

**アンケート概要**

【実施期間】
４月中旬、６月下旬

【対　象】
スタサポを利用しているご家庭

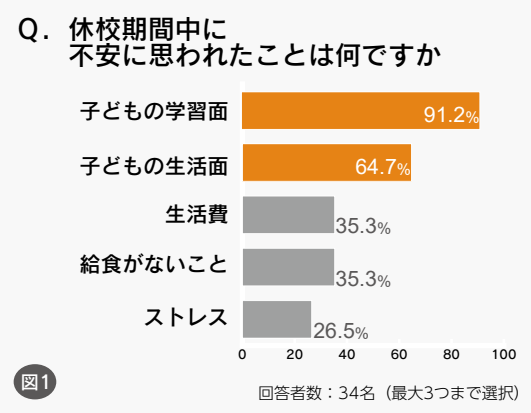
【項　目】
- ICT機器･インターネット接続環境について
- 休校期間中の学習について
- 休校期間中の生活について
- Kacotamに求めることについて　等

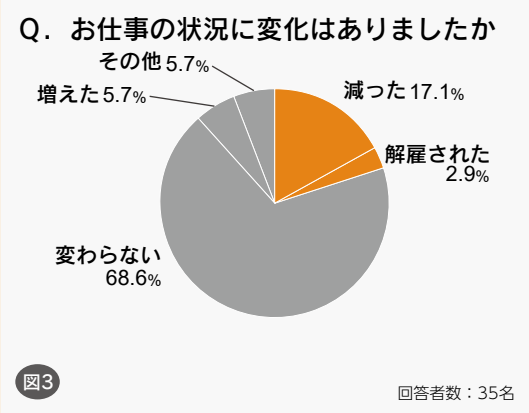
## 学習面への影響

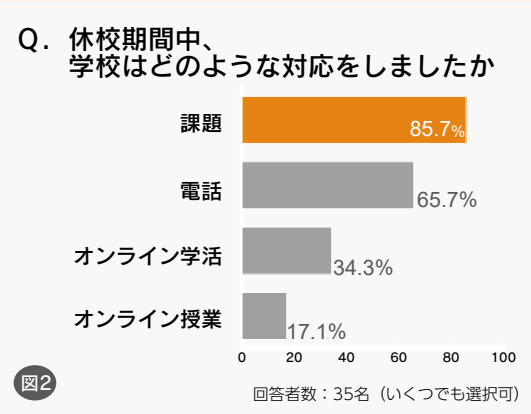
休校期間中に不安を感じた点として、約91％の保護者が「子どもの学習面」を挙げていました（図1）。休校期間中の学校の対応としては、課題提出をさせていた学校が約86%を占める一方、オンライン授業は約17%と、一部の私立高校で行われているのみでした（図2）。家庭環境や学力、意欲によってひとりで自宅学習をすることが難しい子どもにとって、休校期間中は学習面で大いに不安のある環境にあったといえます。

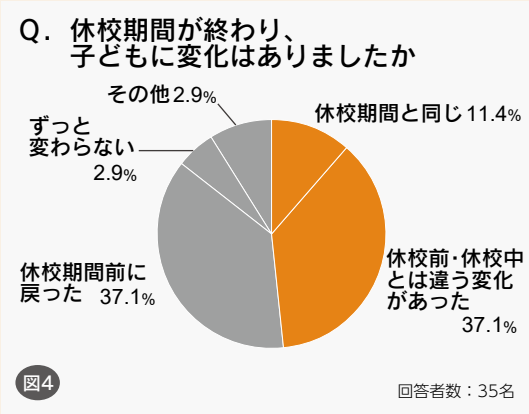
## 生活面の変化

保護者の仕事の状況については、約20%の家庭が、仕事が減った、解雇された、と回答しています（図３）。これによって、生活費への不安や、給食がないことに対する負担を感じる家庭がありました。また、休校期間中には「子どもが昼夜逆転の生活を送っている」という声も多く、ストレスで自傷行為やケンカが増えた家庭もありました。さらに今回の長期的な休校は、休校を終えた後もなお、約半数の子どもに影響を及ぼしています（図4）。



## 保護者の声

息子は、自身のみで学習課題を進めることが困難でした。しかし、今回の学習量を子どもと共に行うには保護者も「相応の時間」を確保しなければなりません。毎日の生活の中で、仕事や家事をしながら、この時間を確保することがとても大変でした。(小5・中3 母親)

「部活も出来ず、友達にも会えず課題がたくさんあり、ストレスがたまる。」とスマホをずっと離さず、昼夜逆転傾向でイライラしたり、ネガティブな発言が多くなったり、ニキビが増えたり、トイレにこもることが多くなったりで、精神的にも身体的にも心配になりました。(高2　母親)

学校に行かない生活に慣れ、ますます学習意欲が低下していました。学校からの課題も途中で放り投げてました。　(小5　母親)

子どもが家から出られないストレス等で髪を抜き、剥げてしまった。ちょうどニュースでも数日前、抜毛症の記事が出ていて、わが子も…と。どうしてよいかわからないまま、剥げた部分を隠して登校中。　(小5･中3　母親)

対面での活動が難しい時期には、ICT（オンラインでつながるシステムや様々な情報機器）を活用した各種代替活動を実施し、子どもの学びを止めない取り組みを行いました。

# 非対面での活動継続

### ICT を活用した子どもの学びの機会保障

## おはようトーク

**14名** が利用しました。

- 実施期間　2020年4月21日～5月17日
- 実施回数　延べ　46回

週1～2回、午前中の約30分間、オンライン会議ツールのZoomを利用して、一対一で子どもとメンバーがお話をしました。

家族以外の人との会話、簡単な学習サポートのみならず、決まった曜日の午前中の時間帯に設定することで、生活リズムを作るきっかけづくりもねらった取り組みです。

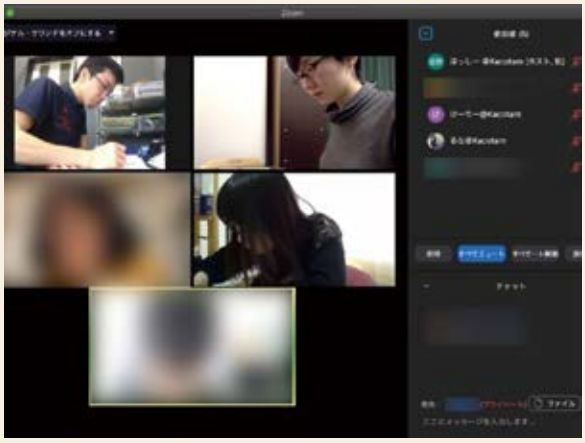
最初の頃はおしゃべりが中心だった子も、後半になるにつれて、次第に学習に関する話題が増えていく傾向にありました。

Stay Homeで家族以外の人とお話しするという機会も減ってしまっている中なので、最初はその部分が新鮮で、徐々に学習での困ったことを相談できる時間として使うようになったということかもしれません。

## オンライン自習室

延べ **100名以上** が利用しました。

- 実施期間　2020年5月4～6、19～31日
- 実施回数　延べ　61回



Zoomの多人数ビデオ通話機能 を利用して、参加者が各自の学習に打ち込める「自習室」をオンライン上に再現した取り組みです。始めに、その日に取り組む予定のやりたい学習内容をお互いに宣言したあとは、「自習室」の名の通り、参加者は黙々と自習をしました。参加者同士、お互いに学習している姿を見えるようにすることで、学習意欲や集中力を保ちながら学習を進めることができました。さらに、限られた時間の中でどれくらい勉強が進められるのかを知る機会にもなりました。

## LINE 学習相談

- 実施期間　2020年4月17日～ 2021年3月31日
- 利用者数　30名

分からない問題や苦手な箇所をいつでも質問できる場として、LINE WORKSを活用した学習相談の取り組みを行いました。子どもが各自のタイミングで質問を送ると、担当メンバーがその解説やアドバイスを返信するというものです。

## オンライン学ボラ

- 実施期間　2020年5月1日～（継続中）
- 利用者数　13名

LINE WORKSのビデオ通話でお互いに顔や手元を映しながら、学習を行うというものです。必要に応じて、児童養護施設へのタブレットの貸出しも行いました。

## オンラインカコタイム

- 再生回数　756回
- 配信本数　9本

様々なメンバーが、自分の興味のあることや子どもたちに伝えたいこと等を動画にして、当団体を利用している子どもに向けて配信をしました。

## ネットのおもしろ教材紹介

- 実施期間　2020年4月25日～ 5月5日
- 紹介教材　13教材

インターネット上（WEBページやYouTube等）にある、自宅学習に使えそうな教材を、数日に1回紹介する取り組みを行いました。

# 時系列で振り返る

### 新型コロナウイルス感染症の影響とその対応

- 2月26日　スタサポ、学ボラ、ゆるきちの活動休止（～ 3月8日）
- 2月27日　全道一斉休校
- 2月28日　北海道緊急事態宣言
- 4月12日　北海道･札幌市緊急共同宣言　再び全道一斉休校
- 4月15日　すべての活動休止（～ 4月26日）緊急保護者アンケート
- 4月17日　LINE学習相談開始
- 4月21日　おはようトーク 開始（～ 5 月17 日）
- 4月25日　ネットのおもしろ教材紹介配信開始（～ 5月5日）
- 5月　ゆるきち 事前利用予約制特別開館
- 5月4日　オンライン自習室 プレ実施（～ 6 日）
- 5月6日　オンラインカコタイム配信開始
- 5月19日　オンライン自習室 開始（～ 31 日）
- 6月　スタサポ活動再開
- 10月28日　北海道警戒ステージ2
- 11月7日　北海道警戒ステージ3
- 11月11日　COVID-19 対策期活動ガイドラインを策定

人数制限をしながら、対面とオンラインを組み合わせた活動実施

# Kacotamの裏側 ～ 学習支援活動を陰で支えるチーム ～

総務・経理事務を一手に担う
## バックオフィスチーム

団体の運営を陰から支えているチームです。団体公式WEBページの更新や、会計処理、各種資料準備等、あらゆる事務作業を担当しています。継続的に学習支援活動を続けていくためにはなくてはならないチームです。

### 活動メンバーの声

学習支援の現場を後方から応援する立ち位置なので、直接的な「成果」を意識することは少ないですが、各チームの活動を通じて、団体の運営や働いているメンバーを支えることにやりがいを感じています。知り合いのメンバーが増えて、交流できるのも、楽しみの一つです。

様々なチームの活動を通して、Kacotamの活動をより広く知ることができました。企画が次々に出てくるのがKacotamの凄さだと感じています。自分の活動によって、子どもを支えるメンバーをさらに後方から支えることができればいいなと思っています。

松浦 ゆかり
（活動歴 5年）

バックオフィスチームやアドボカシーチーム、ソーシャルワークチーム、中高生のオープンスペースゆるきちで活動。

Kacotamの学習支援ノウハウのパッケージ化
## 学習支援活動標準化チーム

学習支援活動の質を維持･向上させるために、内部向け研修会の実施、マニュアルの整備、活動のルール作り等を行っています。それぞれのメンバーが感覚的に行っていた工夫やノウハウを言語化し、全拠点で誰もが実践できるような環境整備に努めています。

子どもの「やりたい」に組織的に応える体制づくり
## カタチ化チーム

子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクトを円滑に進められるようなしくみを作っています。子どもから「やりたい」という声が出てから実際に企画として成立させるまでの仕組みを整備したり、各カタチ化企画の実施･運営をサポートしたりしています。

情報システムで活動効率UP!!
## システム開発室

団体内で使用する情報システムの開発･保守を行うチームです。独自の業務システムであるカコタムポータルの整備や、ホームページの運用、各種サービスとの連携改善などを行っています。ICTの活用による作業効率化によって、円滑な団体運営に貢献しています。

子どものおかれた状況を把握･分析→啓発
## アドボカシーチーム

一般市民に対し、Kacotamが関わる子どもの現状を周知し、学びの機会格差問題の課題意識の醸成を図るチームです。情報収集と資料作成を行ったり、講演会や学習会等の企画･運営を行ったりしています。

Kacotamをもっと多くの人に知ってもらいたい！
## 広報･ファンドレイジングチーム

対外的な広報活動を行うことで、Kacotamの活動を多くの人に応援していただくことを目的としているチームです。同時に、支援を必要としている人たちへ、必要な情報を届ける役割も担っています。各種広報物の制作も行っています。

### 活動メンバーの声

より多くの方々にKacotamについて知ってもらうことが、子どもを取り巻く問題について関心を持つ大人を増やすことにつながると思い、活動しています。

広報用の文章を作る際に、誰に、どのような言葉を入れて伝えていきたいのかを考えるのがとても難しいですが、外部の方々から反応があるととても嬉しく思います。様々な思いを持つメンバーがいて、活動に参加にするだけでもとても刺激になります。また活動の回を重ねるごとに新たな視点を得ることができ、活動の面白さを感じています。

奥田 祐里子
（活動歴 1年8ヶ月）

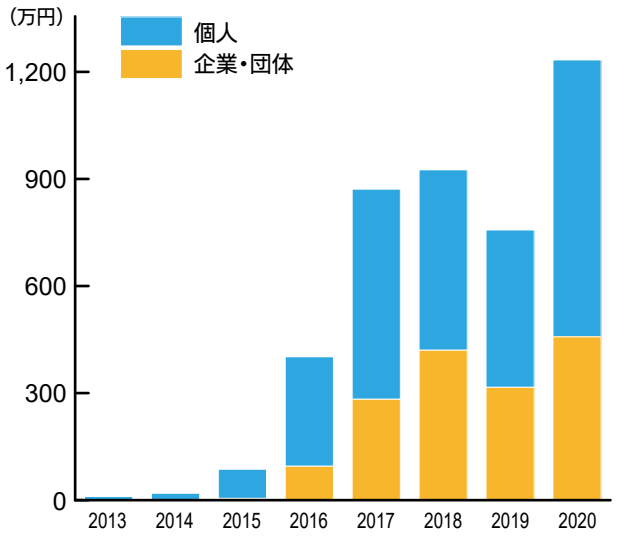
広報･ファンドレイジングチームや中高生のオープンスペースゆるきち、学ボラで活動。

# 支援の輪

当年もKacotamを応援していただき、ありがとうございました。多くの方々に支えられながら、継続して活動することができています。当年は約1,233万円の寄付金が集まり、お菓子やマスク、消毒用品などの物資によるご支援もいただきました。

## 寄付金額

**約1,233万円（前年比163%）**




当年は昨年に比べて約470万円増加しました。企業からの寄付は減少しましたが、昨年に引き続き継続して寄付をいただけたこと、子どもがコロナ禍で学習機会をより一層得られないことを危惧され、新型コロナウィルス感染症緊急経済対策による特別定額給付金の全額あるいは一部を寄付していただける方が多くいたことによって、個人からの寄付金が大きく増加しました。来年は、新拠点の開設や運営、調査などさらなる資金が必要となるため、より多くの方に協力が得られるよう新たな施策を検討・展開していきます。

## 寄付金以外での寄付 ※敬称略・順不同

- ハピぼん「古本募金」(8,391円)
- 書き損じハガキ・未使用切手(40,848円)
- ハマーズよりパソコンの寄付
- 北海道コカ・コーラボトリングより飲料水の寄付
- ソフトバンク「つながる募金」
- おてらおやつクラブよりお菓子等の寄付
- 札幌キワニスクラブより消毒用品の寄付

## 協力団体等 ※敬称略・順不同

- ハピぼん事務局
- しんぐるまざあずふぉーらむ北海道
- 藤女子大学(隈元ゼミ)
- NPO法人ねっこぼっこのいえ
- NPO法人陽だまりの家
- NPO法人麻生キッチンりあん
- 琴似連合町内会
- あさぶ商店街
- 手稲さと川探検隊
- FRSコーポレーション(株)
- COCOTOMA
- 社会福祉法人扶桑苑
- 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
- あすかの森認定こども園
- NPO法人リカバリー
- 株式会社土肥商店

## 募金箱設置協力 ※敬称略・順不同

- パパヒデヒコ(札幌市中央区 / カフェ)
- 大竹製麺所(札幌市中央区 / 製麺所)
- 北海道生協連(札幌市白石区 / 事業所)
- Hair Designers Gallery(札幌市中央区 / 美容室)
- Pizzeria＆GelateriaORSO(札幌市東区 / 飲食店)
- 八百丸麻生店(札幌市北区 / 青果店)
- 髪切屋さんtete(札幌市中央区 / 美容院)
- 焼鳥とりやん(札幌市西区 / 飲食店)
- KAMIHOKI(札幌市清田区 / 八百屋)
- 株式会社SORRYKOUBOU(上川郡下川町 / 化粧品販売)

## 寄付金をいただいた企業・団体 ※敬称略・順不同

KDDI
accenture
北海道生活協同組合連合会
社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院
札幌西ライオンズクラブ
旭イノベックス株式会社
札幌ライラックライオンズクラブ
国際ソロプチミスト札幌
株式会社ワークスペース工房
一般社団法人MDRT日本会
株式会社 ラプト
株式会社 オガワヤ
札幌北ロータリークラブ
ライオンズクラブ国際協会331-A地区
札幌キワニスクラブ
株式会社SORRY KOUBOU
北海道労働金庫労働組合
株式会社APクリエイション

# 2021年にむけて

2018年から2020年にかけて、視野が広がる環境づくり、組織体制の強化、地域との関係性構築、つながりができる環境の整備など、既存拠点の活動の充実を図ってきました。2021年からは、学習に取り組める環境づくりの活動拠点・施設のより一層の拡大を進めていきます。

### スタサポ拠点運営の改善

スタサポ拠点拡大に向けて、職員中心からボランティアメンバー中心とする拠点運営に方針転換して仕組みづくりを進めていきます。またそれと併せて、既存拠点のより安定的な運営と質の向上を図るために、①パート職員の採用、②各拠点周辺地域ごとにおけるボランティアメンバーの採用方法の確立、③拠点の評価とメンバー個人の振り返り方法の確立を行います。

### Kacotam 東京支部の立ち上げ

2021年4月以降にKacotam東京支部を立ち上げ、首都圏で活動するNPOと共催でスタサポの活動を開始します。もともと札幌市内で活動していたメンバーを中心に活動を開始します。札幌で活動しているメンバーが様々な地域に散らばり、その地域で活動できるようにすることで、様々な地域で子どもの学びの場が雨後の筍ごとく生まれてくる、その足がかりとできればと考えています。

### オンラインの学習支援の検討・実施

当年実施したLINE学習相談で、スタサポ拠点が無い地域の子どもや対面での会話を苦手とする子どもとつながることができました。今後もそのような子どもにアプローチできるように、改めてオンラインの学習支援について、対象や実施方法、使用ツールなど、当年実施した内容を振り返りながら検討します。

### 北海道内の新たな拠点・施設訪問の検討・調査

札幌市内に新たな拠点を開設するために、その地域のNPOや行政へのニーズ調査をしたり、会場となり得る公共施設や協力団体を探したりしていきます。また、札幌市近郊の新たな市町村において、児童養護施設へのニーズ調査やボランティアメンバー採用に向けての施策を検討していきます。

当年は新型コロナウイルス感染症拡大により、活動休止や人数制限せざるを得ない状況となり、Kacotamの使命「環境に左右されない楽しい学びの場をすべての子ども・若者へ」を実践する難しさを痛感しました。しかし、Kacotamに関わる皆さんの協力により、からんこえやオンラインの取り組みなど、制限がある中でも子どもに学びの機会を提供することができました。これからも使命を強くもって活動に努めて参ります。

認定NPO法人 Kacotam　理事長　髙橋 勇造

発　　行　認定NPO法人Kacotam
活動報告書制作委員会
（髙橋・大澤・斉藤・主藤・中村・野戸・吉田）

発 行 日　2021年4月30日